



キューピーグループ初のCO2 ネットゼロ工場が実現

キューピー神戸工場における使用電力を2022年12月から 実質再生可能エネルギー由来 100%へ切り替え

CO2 排出量を年間で約 3,680 トン削減

キューピー株式会社

キューピー株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員:高宮 満、以下キューピー)は、西日本最大の調味料生産拠点であるキューピー神戸工場で使用する電力を、実質再生可能エネルギー由来 100%へ切り替えます。この取り組みにより、キューピーグループで初のネットゼロ工場が実現し、年間約 3,680 トンのCO2 排出量が削減できる見通しです。関西電力株式会社による、再生可能エネルギーメニューでの電力供給と、三井物産株式会社からの供給燃料(蒸気)で発生するCO2 相当のJ-クレジット^{※1}の購入により、2022年12月からは、実質再生可能エネルギー由来 100%へ切り替えることができました。



キューピー神戸工場屋上に設置した太陽光パネル

※1 J-クレジット制度とは、温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度。

キューピーグループでは、2012年から現在まで、国内13拠点に太陽光パネルを設置しています。2022年8月には、株式会社キタカミデリカ(キューピーグループの惣菜工場)が太陽光発電のスペースを提供し、株式会社Loopが設置と管理を行う「オンサイトPPAモデル」で運用し、同工場での総電力使用量の5.3%を発電することで、年間約85トンのCO2 排出量削減を見込んでいます。



キタカミデリカ屋上に設置した太陽光パネル

さらに2023年2月頃には、国内3拠点での太陽光パネルの設置を予定しています。

【参考】キューピーグループ国内拠点における太陽光パネル設置状況

設置開始時期	拠点名	設置開始時期	拠点名
2012年3月	キューピー ファインケミカル本部 五霞工場	2020年4月	旬菜デリ 昭島工場
2013年4月	ケイパック 本社工場	2021年2月	キューピータマゴ 飯能工場
2013年10月	仙川キューポート	2021年11月	旬菜デリ 青梅工場
2014年4月	キューピー醸造 滋賀工場	2022年2月	キューピー 神戸工場 (オンサイトPPAモデル)
2015年1月	グリーンファクトリーセンター 白河 ★	2022年8月	キタカミデリカ (オンサイトPPAモデル)
2015年9月	富士吉田キューピー ^{※2} ★	2023年2月頃 予定	サラダクラブ 遠州工場 (追加パネル設置)
2016年2月	サラダクラブ 遠州工場 ★		キューピータマゴ 三田工場
2016年12月	キューピー 五霞工場		キューピータマゴ 尾張工場

2022年2月から★印のついた3拠点で発電された環境価値(トラッキング付FIT非化石証書^{※3})付きの電力を、渋谷本社および仙川キューポートの使用電力へ振り替え、実質再生可能エネルギー由来100%になりました。

キューピーアヲハタニュース 2022 No.24 参照 <https://www.kewpie.com/newsrelease/2022/2465/>

- ※2 富士吉田キューピー:2021年に株式会社はくばくへ事業譲渡。その敷地内にキューピーが設置した太陽光パネルは、現在もキューピーが保有し、管理を継続している。
- ※3 トラッキング付FIT非化石証書:非化石電源により発電された電気が持つ「非化石電源由来であることの価値」を証書化したもの。小売電気事業者が非化石価値取引市場で調達して、需要家に販売する電気に活用することで温室効果ガス排出量の削減が認められている。

キューピーグループは、サステナビリティ目標において2030年度までにCO2排出量削減率50%以上(2013年度比)の達成を掲げています。気候変動の原因となるCO2排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階において、省エネの取り組みや再生可能エネルギーへの転換などを、積極的に取り組んでいます。

キューピーグループは、企業の責任に向き合い、未来を創る子どもたちにより良い社会と地球環境を残すことができるよう、今後も気候変動への取り組みを強化、加速していきます。

【参考】

気候変動への対応 <https://www.kewpie.com/sustainability/eco/warming/>